



■ ブイグ・コンストラクション



■ ブイグ・イモビリエ



■ コラス



■ テー・エフ・アン



■ ブイグ・テレコム

2012年度 ブイグ事業概要

2013年2月

BOUYGUES

目次

マルタン・ブイグからのメッセージ	1
今日のブイグ	2
2012年度ハイライト	8
2012年度主要データ	10
■財務関連指標	10
■社会的責任指標	14
建設関連事業に焦点	16
2012年度の諸活動	
■ブイグ・コンストラクション(総合建設業の大手)	18
■ブイグ・イモビリエ(不動産開発の国内リーダー)	22
■コラス(道路施設のワールドリーダー)	26
■テー・エフ・アン(仏民放テレビ界のトップグループ)	30
■ブイグ・テレコム(トータル通信サービス企業)	34
■各事業部門の社会的責任指標	38
アルストム [より持続可能な世界の構築]	40
グループ連絡先	

プロフィール

多角的な仏企業グループのブイグは、現在80カ国以上に進出して13万3000人の従業員を擁しています。傘下の事業は建設、不動産、道路、メディア、及び通信の5部門で構成されていますが、重電企業アルストムの主要株主にもなっています。ブイグは健全な財務体質、安定した株主、及び強

力かつ独創的な企業文化を武器にして、確かな需要に支えられた分野に足場を築いています。ユーロネクスト・パリに上場しており(CAC40構成銘柄、Compartment A指数)、2012年12月31日現在における株式時価総額は73億ユーロになっています。

会長兼CEO マルタン・ブイグからの メッセージ

従業員数
13万3780人

2012年度売上高
335億4700万ユーロ
(3%増)

連結当期純利益
6億3300万ユーロ (41%減)

1株当り配当^(*)
1.60ユーロ (前年度同額)

2013年度目標売上高
334億5000万ユーロ
(横ばい)

(*) 2013年4月25日の株主総会で提案予定



ブイググループの2012年度営業成績は、通信市場の激変を色濃く反映する形になりました。調整前営業利益は前年度より5億3300万ユーロ少ない13億ユーロに留まりましたが、4億3900万ユーロの減少分が通信事業の落ち込みに起因しています。この結果、連結当期純利益は6億3300万ユーロとなりました。

しかし、こうした厳しいビジネス環境にあっても、ブイググループはしっかりした基盤を保持しました。その第一の要因は極めて臨機応変な営業活動を示したことです。

ブイグ・コンストラクション (Bouygues Construction)、ブイグ・イモビリエ (Bouygues Immobilier)、及びコロラス (Colas) の合計受注残高は2011年度末に比べて8%増の268億ユーロに達しました。各社とも国際舞台でプレゼンスを発揮して、高付加価値を持つ斬新なソリューションをお客様のために開発しています。

デー・エフ・アン (TF1) は、無料地上デジタルテレビ放送の4チャンネルを活用して年度中の視聴率を向上させました。ブイグ・テレコム (Bouygues Telecom) は革新的な取り組みを続けてきました。同社はB&YOUの躍進のおかげでモバイルユーザー数を安定確保するとともに、固定ブロードバンド分野でもBbox Sensationを成功裏に投入してダイナミズムを維持しました。

一方、ブイググループは健全な財務体質を堅持しており、4Gの周波数帯割当確保のための出費にもかかわらず正味負債を抑えて、揺るぎないフリーキャッシュフロー水準を誇っています。

2012年度の際立った特徴としては、いずれの事業部門においても、市場動向に機敏に対処するために重要な適応計画を打ち出せたことでした。ブイグ・テレコムの転換プランはその代表例です。

エネルギーに係わる将来の課題にしかるべく対処し、お客様のニーズとご期待にきちんと応えてゆくためには、グループ全体で共有する創造性とノウハウに加えて、「持続可能な建設」に対する強いコミットが大きな切り札になります。ブイググループの将来の発展は、まさに優れたイノベーション力の上に築かれていくことになるでしょう。

最後に、熱心かつ意欲的なスタッフのお仕事ぶりと、株主の皆様のご信頼に対して厚く御礼を申し上げます。次第です。

2013年2月27日

M. Bouygues

< いずれの事業部門においても
重要な適応計画を
打ち出すことができました >

今日のブイグ

1952年に創業したブイググループは現在では80カ国以上に進出しており、強力かつ独創的な企業文化を軸にして、さらなる発展のための揺るぎない基盤を誇っています。

13万3000人の従業員を擁するブイググループは、ブイグ・コンストラクション(建設)、ブイグ・イモビリエ(不動産)、コラス(道路)、テー・エフ・アン(メディア)、及びブイグ・テレコム(通信)の5事業をベースにする一方、アルストムの主要株主として発電、送電、鉄道輸送にも関わっています。現在、ユーロネクスト・パリに上場しています(CAC40構成銘柄、Compartment A指数)。

ビジネス戦略

多角的に事業展開するブイググループは、各部門が着実にキャッシュフローを生み出せる長期的な成長ポテンシャルを持った分野に足場を築いています。

いずれの活動においても競争力を維持しながら、常に斬新なサービスをお客様に提供して、企業としての付加価値を高めることを目指しています。

例えば建設関連部門においては、特にアジアや中東などの国際舞台における活動を優先しています。この結果、国外売上比率はブイグ・コンストラクションでは47%、コラスの場合は44%に達しています。

沿革

1952年 建築専門のEntreprise Francis Bouygues (EFB) 創業

1956年 不動産開発へ多角化 (Stim社)

1965年 土木及び公共工事を国内で展開

1970年 パリ証券取引所に上場

1972年 Bouygues (ブイグ) に社名変更し国際活動をスタート

1984年 配水会社Saur (ソール) と電気関連のETDEを買収 (Saurは2005年に譲渡)

1986年 道路工事トップ企業Scregを獲得して総合建設の世界的リーダー

1987年 仏テレビ界トップのテー・エフ・アンの主要株主

1994年 ブイグ・テレコムがフランスで3番目の携帯電話事業者としてスタート

2006年 アルストム株式の仏政府持分を引き取り同社主要株主

2008年 ブイグ・テレコムが固定通信サービスを開始

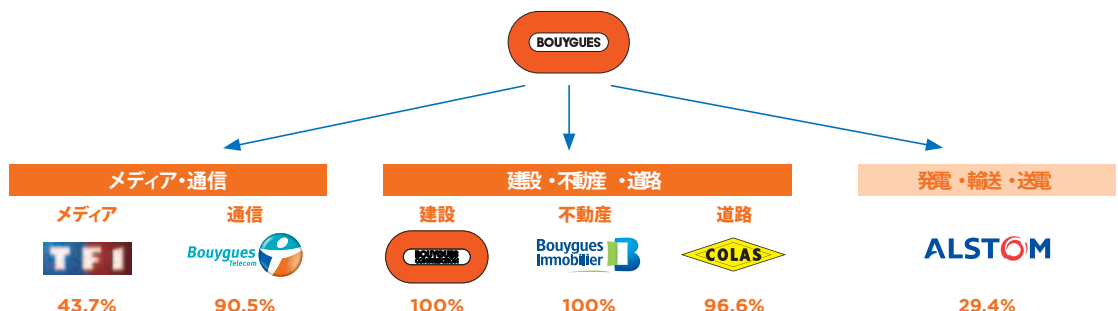
2011年 インターネット販売に特化した新サービス「B&YOU」をスタート

ブイグの強み

安定した株主

安定株主が存在するおかげで、ブイグは長期的な戦略ビジョンを大事にすることが可能になっています。すなわち、マルタン・ブイグとオリヴィエ・ブイグが保有するSCDMと従業員がブイグの2大安定株主になっているのです。

■ グループ簡易組織図 (2012年12月31日現在)





米国マイアミ港
トンネル工事

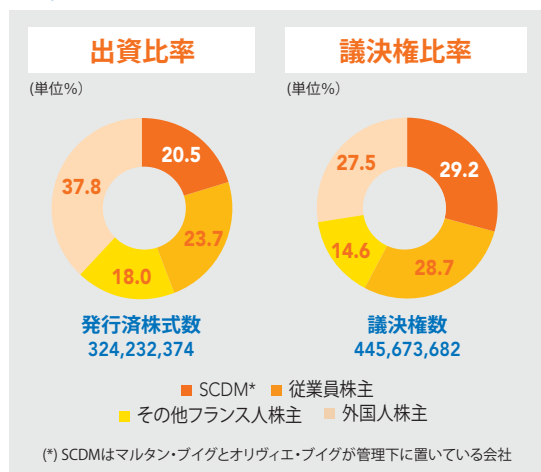
- 2012年12月31日現在、SCDMの出資比率と議決権比率は20.5%と29.2%
- 2012年12月31日現在、従業員株主数は6万人以上（CAC40種銘柄中トップ）。従業員株主の出資比率と議決権比率は23.7%と28.7%

強力かつ独創的な企業文化

グループの5事業部門で共有されているブイグの社風は「尊重」、「信頼」、「公平」という人材憲章の3原則に依拠しており、各種プロジェクトの管理ノウハウやチームマネジメントにおいてその特色が発揮されています。

株主構成

(2012年12月31日現在)



確かな需要が見込める分野に足場

建設関連事業（建設・不動産・道路）では、先進国と新興諸国でかなり大きなインフラ・住宅需要が見られます。また、「持続可能な建設」に係わるニーズ（低エネルギー消費建築物、プラスエネルギー型建物、ECO街など）もますます強まっています。ブイグはこれらの分野で革新的なノウハウを開発し、自他ともに認める競争優位を確保しています。また、フランスの通信やメディア関連では、テクノロジーやライフスタイルの急速な進化のおかげで今後も市場の拡大が見込まれています。

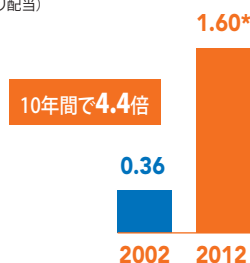
非常に健全な財務体質

ブイグは堅固な財務体質を誇っています。投資活動をうまくコントロールして着実にキャッシュフローを生み出しているため、負債比率を低く抑えながらも豊富な手元流動性を確保できています（2012年末現在の負債比率は41%）。

ブイグはこの強みを武器にして過去10年間に配当額を4.4倍に増やし、2012年には7.5%の平均リターンを実現しました。

配当推移

(1株当り配当)



(*) 2013年4月25日の株主総会で提案予定

■ 組織とガバナンス (2013年2月26日現在)

経営陣 ブイグ本社 マルタン・ブイグ 会長兼CEO オリヴィエ・ブイグ CEO代行 ジャン＝フランソワ・ギュマン 事務本部長 フィリップ・マリアン CFO兼ブイグ・テレコム会長 アラン・プヤ エグゼクティブVP (情報システム及び ニューテクノロジー担当) ジャン＝クロード・トスティヴァン シニアVP (人事及び総務担当) 5事業部門 イヴ・ガブリエル ブイグ・コンストラクション会長兼CEO フランソワ・ベルティエール ブイグ・イモビリエ会長兼CEO	エルヴェ・ルブック コラス会長兼CEO ノンス・パオリニ テー・エフ・アン会長兼CEO オリヴィエ・ルサ ブイグ・テレコムCEO 取締役会 マルタン・ブイグ オリヴィエ・ブイグ CEO代行及びSCDM常任代表 パトリシア・バルビゼ (*) アルテミス取締役CEO フランソワ・ベルティエール ブイグ・イモビリエ会長兼CEO フランスシス・ブイグ夫人 ジョルジュ・ショドロン・ドクルセル BNPパリバCOO ルシアン・ドゥルー (*) インドスエズ・プライベート・ バンキング 監視委員会元会長 イヴ・ガブリエル ブイグ・コンストラクション会長兼CEO	アンヌ＝マリー・イドラック (*) SNCF元会長兼CEO パトリック・クロン アルストム会長兼CEO エルヴェ・ルブック コラス会長兼CEO エルマン・ルパ・ドセシュヴァル (*) ヴェオリア・エンパイロメントの シニアエグゼクティブVP兼事務本部長 コレット・ルヴィネール (*) キャップジェミニ会長アドバイザー サンドラ・ノンブレ 従業員株主代表 ノンス・パオリニ テー・エフ・アン会長兼CEO ジャン・ペイルルヴァド (*) レオナルド&CO監査役会会長 フワンソワ＝アンリ・ピノー (*) PPR会長兼CEO ミシェル・ヴィラン 従業員株主代表
---	---	--

(*) 社外取締役

■ 現従業員 (2012年12月31日現在)

13万3780人

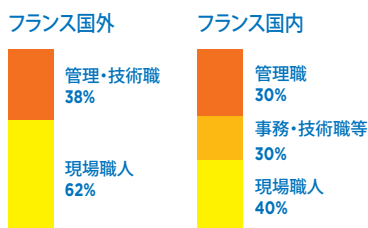
フランス国内の従業員数

7万7040人
(全体の58%)

平均年齢 **39歳**
平均勤続年数 **11年**

正社員比率 **94%**

スタッフ職位



人材重視

責任感と進化

ブイググループでは分権化(ディセントラリゼーション)を経営原則として掲げ、実際の業務に詳しい現場の担当者に権限を委譲するようにしています。各スタッフに対する信頼の証として相應の職責を速やかに付与しているのです。

ブイグは内部昇進の優先制を維持し、社員教育の面でも法的義務を上回る実績を上げています。具体的には、フランス国内の従業員の4.5%相当に必要な研修を施しました。グループ全体だけでなく各事業部門でも従業員を支援する各種の研修コースを設けています。

社内モビリティ

職能開発ファクターである社内モビリティはブイグの人事政策の大きな要になっています。そのため各事業部門における諸制度に加えて、ブイグ本社レベルにおいても配転部署を設けているほか、イントラネットを通じて提供可能なポストを紹介しています。



7万7000人以上の
国内従業員



個人生活との両立

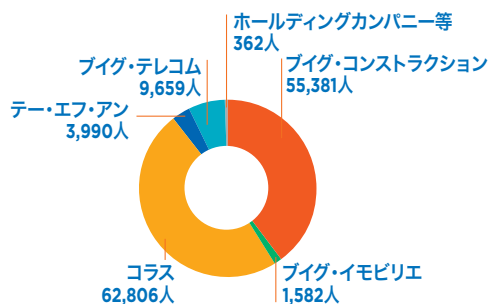
例えば、プロジェクト方式で行われる工事関連の仕事は職場が変動するため、従業員にはしばしば無理な勤務負荷が掛かることが想定されます。このため、ブリググループでは従業員の個人生活を損なわないような仕組みを工夫しています。具体的には、時間貯蓄口座（労働時間貯金制度）を設けたり、情報技術を活用してテレワークを奨励したり、関連会社間の提携により託児所網を拡充させたりしています。

公平性の追求

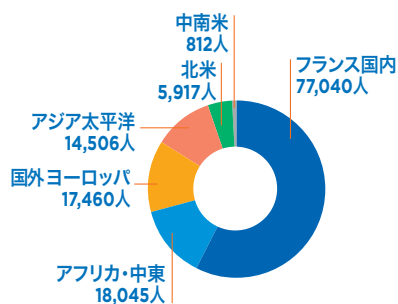
ブリグでは外見や出身にかかわらず、各従業員の功績を公平に評価するスタンスを貫いています。特にテー・エフ・アンとブリグ・テレコムはAfnorのLabel Diversité（人材多様性認証）を取得していますが、他の事業部門においても性別、年齢、障害、出身などによる差別を防止する方針を堅持しています。

■ 現従業員（2012年12月31日現在）

事業部門別の従業員数



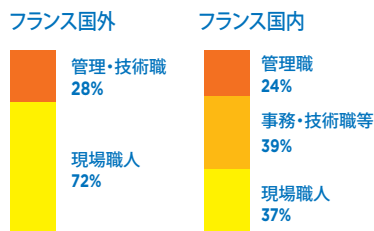
地域別の従業員数



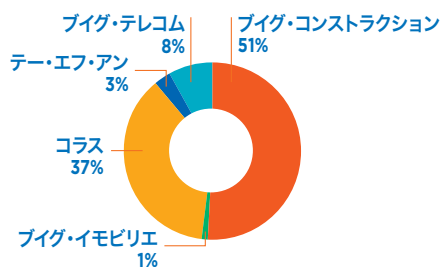
■ 2012年度新規雇用

世界全体で **2万643人**
国内で **9667人**

職位別採用



国内事業部門別採用





環境保護

エネルギー・炭素戦略

ブイグは事業活動による環境への影響を測定し、環境負荷軽減のための優先的アクションを実施するため、温暖効果ガス排出に関するグループ全体の炭素収支評価を2012年度に初めて公表しました。

この炭素収支評価のおかげで、事業活動による炭素排出度を下げる方策に必要な情報が得られました。ブイググループはこれを踏まえて、例えば森林をもっと大切にする新たな建設モデルを開発していきます。

リサイクルとエコ・コンセプション

いずれの事業部門においてもリサイクルを励行しエコ・コンセプションを推進しています。例えば、コラスでは道路施設プロセスの中に資材リサイクルを組み込んでおり、ブイグ・コンストラクションでは、建物の設計から解体に至るまで環境への悪影響を抑える工法を提唱しています。また、CSTB（フランス建築科学技術センター）による Elodie® ソフト（建築物ライフサイクル分析ツール）の開発に貢献しました。さらにブイグ・テレコムでも、店舗のエコ・コンセプションなど各種のアクションを実施しています。

他方、ブイググループは一丸となって、情報電子機器の回収とリサイクルに努めています（2012年度は17,590以上の備品を対象）。

生物多様性と有害物質対策

ブイグの建設関連部門は生物多様性の保護にコミットしています。コラスの砂利・採石場では、非政府組織（NGO）や博物学者などと密接に協力しながら、絶滅危惧種の生存環境の保全に寄与することを約し、開発済みの鉱床の再整備にも努めています。

一方、ブイグ・コンストラクションでは、インフラ計画に伴う生物多様性の課題に応えるため、GIE（経済利益団体）の「Biositiv」を2012年に設立しました。その目的としては、単なる補償措置の枠組みを超えて、むしろ積極的に生物多様性を生み出す戦略を志向することです。この「Biositiv」は、エコロジー・エネルギー・持続可能な開発・海洋省から、「SNB（生物多様性のための国家戦略）2011-2020」に参画するものとして注目されました。

メディア・通信部門は、例えばテレビ番組「Ushuaïa（ウシュアイア）」の視聴者や自社従業員を対象にして、生物多様性への意識向上運動を開始しています。

有害物質対策としては、ブイグ・イモビリエとブイグ・コンストラクションが、不動産開発計画においてIAQ（室内空気質）の向上に資する方策を講じています。



モンペリエ付近における
高速道路A54号線の車道改修工事
(コラス)

企業市民

メセナ

メセナの方針は、グループ全体や主要事業部門で進めているだけでなく、地元市民による多くのイニシアチブと連動しながら現場レベルでも実行に移しています。ブイグは世界中の進出先の地域活動に積極的に参加しているのです。



フランス・ブイグ企業財団の
第8期生

ブイグ本社のメセナ方針としては、社会福祉、文化、教育の3つの領域をカバーしていますが、とりわけ従業員が支えになってくれるプロジェクトに対して格別の注意を払っています。例えば、フランス・ブイグ企業財団は2005年以来、勉学意欲を持ちながらも経済的困難に直面している400人以上の高卒者を奨学生としてバックアップしてきました。全員がブイググループの従業員である後見人が、これらの奨学生を励まししながら勉学を続けさせる仕組みになっています。

■ イノベーションと協働

ブイググループは、環境の尊重を基軸とする横断的なイノベーションアプローチに依拠しています。グループ全体のための専門チームであるe-labが、傘下各社の研究革新チームを補助しながら、斬新な製品やサービスの構想に参画したり、エネルギーに関する研究を先導したりしています。

具体的な成果として、e-labはブイグ・コンストラクションがサービス開始しているEnergy-Pass®を開発しました。これは新築公営住宅などの光熱エネルギー消費を制御するツールで、Ademe（環境エネルギー管理庁）から資金支援を受けました。

e-labは「大型プロジェクトにおける刷新」、「デザインとイノベーション」、「購入と革新」といった様々なテーマについて、「Matinées de l'innovation」（イノベーションのマチネ）を定期的に開催しています。これは研究、改革、技術、マーケティング、及びビジネス戦略を各事業部門で担当する500人の管理職を対象にするものです。

ブイググループは各種ノウハウの共有化を促進し、スタッフ間のネットワークを奨励しています。このため、BYpediaと呼ばれる協働サイトを立ち上げました。全てのスタッフがアクセスできる当サイトは、特に環境のテーマを巡って利用されています。グループ内で開発されたBYpediaは、Cegos〈協力企業2012〉賞（「コミュニティと協働」部門）を獲得しました。

詳しい情報や指標はブイグ
グループの公式サイトをご
覧ください

www.bouygues.com
追加情報 ➤

2012 年度ハイライト

優れた実績を上げた ブイグ・コンストラクション

ブイグ・コンストラクションの受注残高は直近3年間で年平均13%の伸び率を記録し、2012年12月末には過去最高の171億ユーロを達成しました。

2012年度にフランス国内外で獲得した大型案件としては、パレ・ド・ジュスティス（パリ裁判所）、ニーム・モンペリエ間のパイパス鉄道、香港・珠海市・マカオを結ぶ橋（港珠澳大橋）、及びタイの最高層ビルであるMahaNakhon（マハナコン）タワーの建設などが挙げられます。

転換の年を迎えたブイグ・テレコム

期間非拘束・端末無しサービスのオンライン販売の伸長や、第4の通信事業者の参入などに対応するため、ブイグ・テレコムはビジネス活動の転換プランを実施しました。当該プランの中には提供サービスの再位置付けと簡素化、資産譲渡、及び2013年末を目処とする3億ユーロの経費節減計画も含まれています。一方、固定分野での急成長にも依拠して斬新なBbox Sensationを打ち出しました。

独自の発展を追求したコラス

コラスはフランス国内における道路施工ビジネスの新組織化を開始し、北米やオーストラリア等の有望地域での展開に加えて、鉄道事業でも引き続き成長を遂げました。例えば、ロスステス（ベネズエラ）やクアラランプール（マレーシア）の鉄道工事に続いて、アルジェ（アルジェリア）の地下鉄拡張工事を受注しました。また、英国で鉄道機材の保守修理を専門的に行っているPullman Rail社を買収しました。

グリーンビルで力をつけた ブイグ・イモビリエ

ブイグ・イモビリエでは、予約住宅販売が国内住宅業界の大幅な落ち込みの影響を受けたものの、グリーンイノベーションの進展を武器にしてオフィスビル分野で各種の契約を獲得しました。例えば、リヨン市のHikari（ヒカリ）やパリ地域のIssyGrid®のような「持続可能な街」の開発、リュエイク＝マルメゾンとナンテールのGreen Office®（プラスエネルギーのビル）、及びRehagreen®（ビルの再利用プロジェクト）などに注力しています。

事業の再編に乗り出した テー・エフ・アン

テー・エフ・アンは広告市場が今一つ振るわない中で、TF1グループ内の新たな牽引力となる事業多角化を推し進めています。その一方で、経常的な費用を2014年までに8500万ユーロ削減することを目指す最適化プランのphase II（第2段階）をスタートさせました。

また、アメリカのメディア企業Discovery Communications（ディスカバリー・コミュニケーションズ）と、スポーツ専門放送のEurosport（ユーロスポーツ）、フランス国内の有料テレビ、及びコンテンツ制作の3領域に関して戦略的パートナーシップ契約を結びました。

Discovery Communicationsは、Discovery Channelを含む世界153のテレビ局を通じてドキュメンタリー、ルポルタージュ、及び映像シリーズ番組を放送しており、この分野では世界トップのメディアグループと見なされています。





バンコク(タイ)の
MahaNakhonタワー計画



HD1チャンネルの
Pan Amシリーズ



モロッコの複合港
Tanger Med 2



英国の鉄道
保守と改修



リュエイユ=マルメゾンの
Green Office®

■ 注目データ

13億ユーロの契約額

ブイグ・コンストラクション、コラス、及びアルストムが参加した、ニーム・モンペリエ間のバイパス鉄道工事に係るPPP(官民パートナーシップ)は大型。

107万8000人の顧客数

24時間使い放題の非拘束型料金プラン(25ユーロ未満)の「B&YOU」が、オンライン販売に特化する形で2011年に初スタート。そのユーザー数は既に100万人を突破。

4チャンネルを提供

テー・エフ・アンは無料地上デジタルテレビ放送(仏略称TNT)の第4チャンネルとして、新たにHD1を開始してサービス基盤を強

化。TF1グループの全チャンネルを合わせた4歳以上視聴者シェアは28.4%を記録(*)。

76.9キロワット時

1㎡当り年間70.8kWh(キロワット時)の電力消費に対して、再利用可能エネルギー源から76.9kWhの電力生産を実現。フランス初のプラスエネルギー型大規模オフィスビルであるムードン市Green Office®が、利用の初年度から期待通りの成果。

23.7%の持株比率

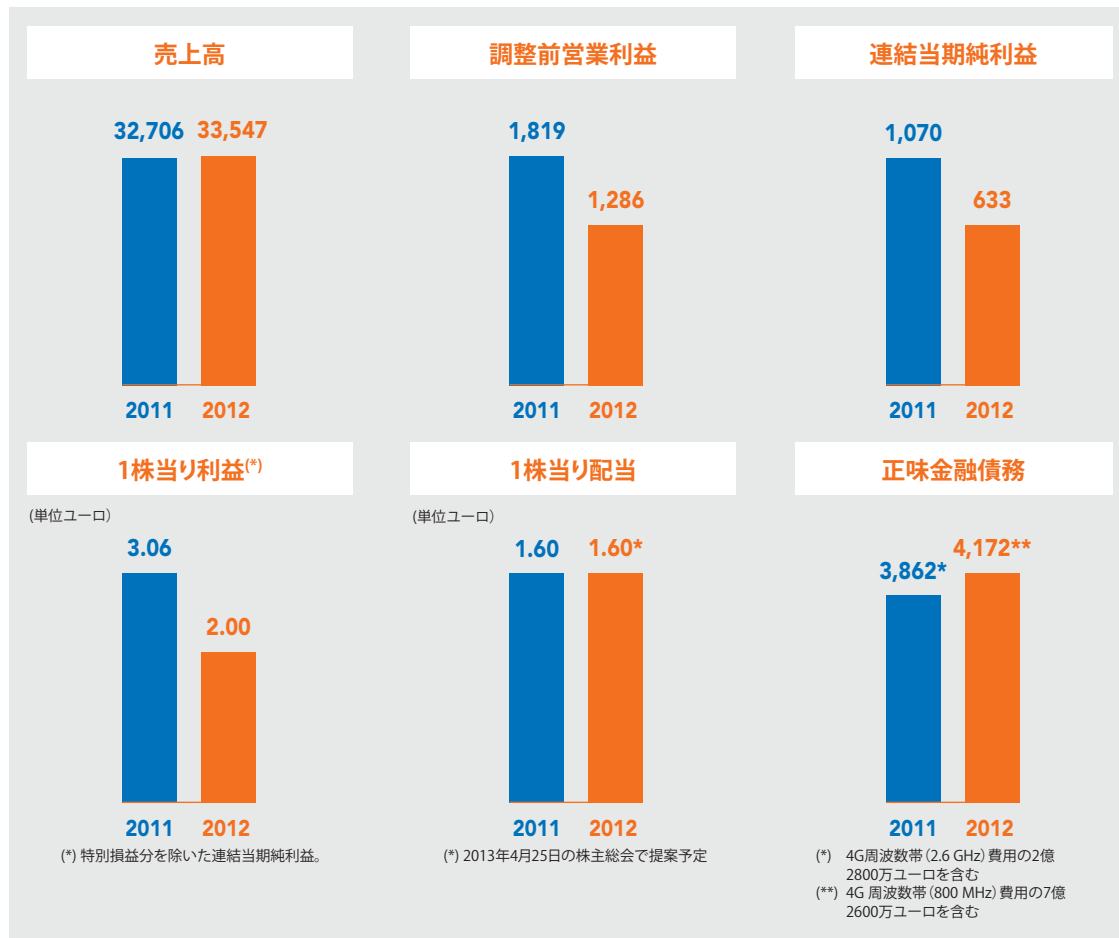
資本金の2割以上を従業員が出資。従業員の持株比率はCAC40種銘柄中トップ。

(*)データはMédiamétrie社のMédiamatによる。

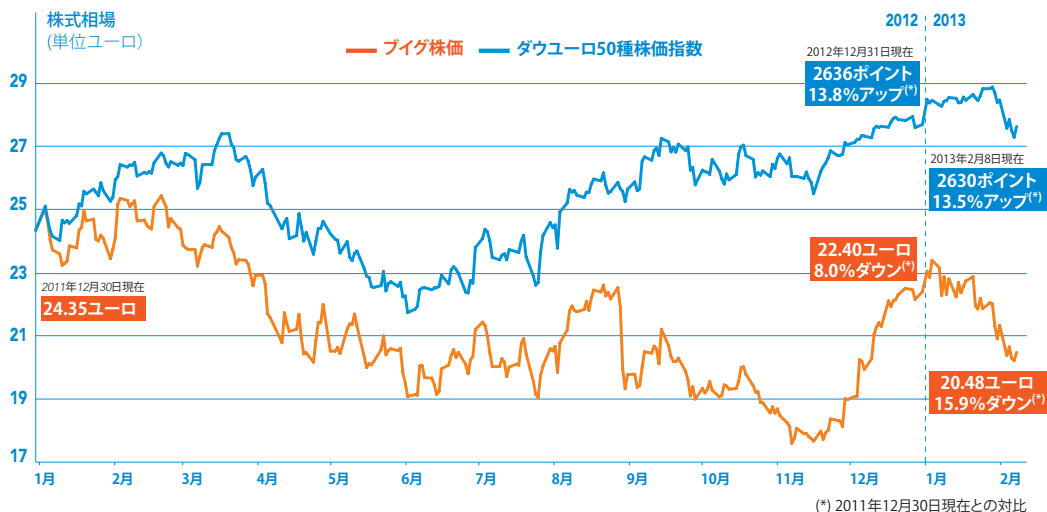
2012年度主要データ

持分法適用会社であるアルストムは連結当期純利益にのみ貢献している

(単位100万ユーロ)



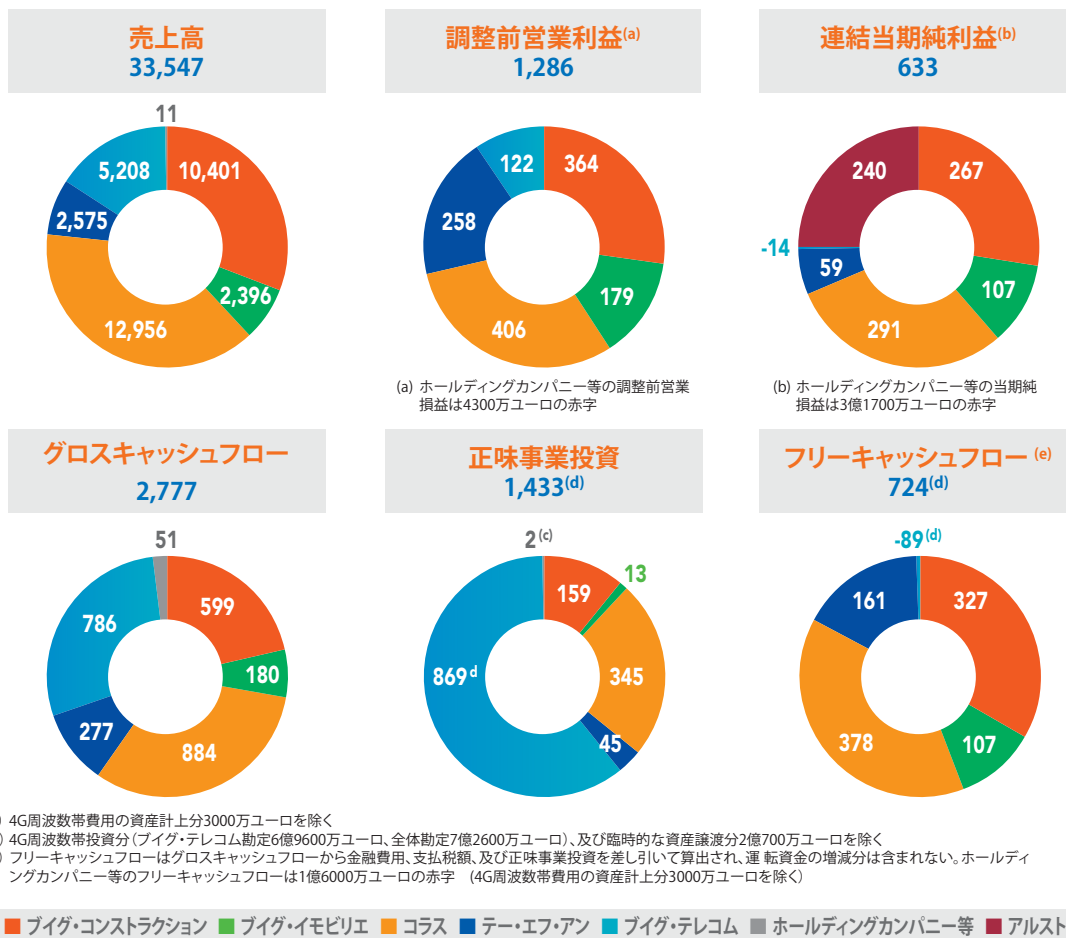
■ 2012年初頭以降の株価推移



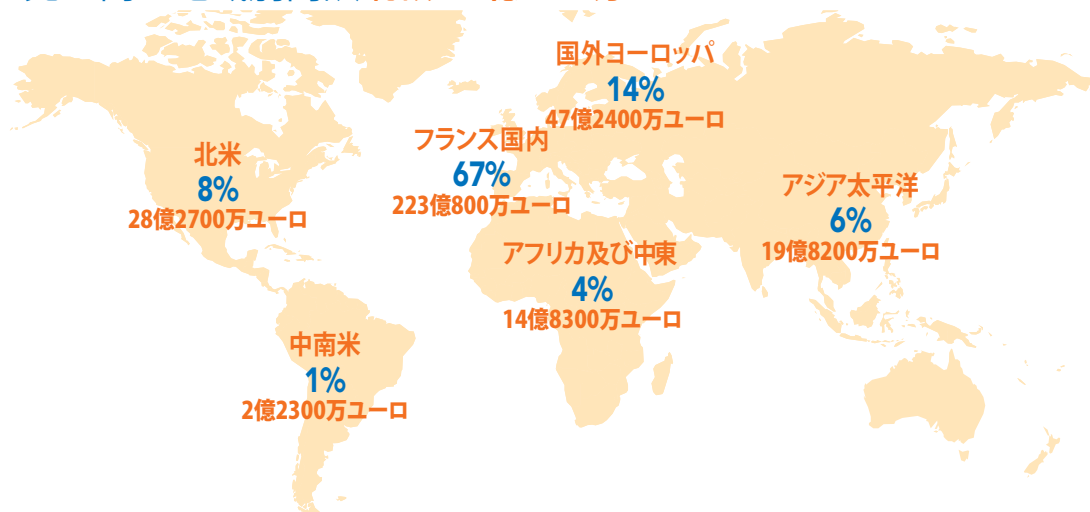
■ 各事業部門の貢献

持分法適用会社であるアルストムは連結当期純利益にのみ貢献している

(単位100万ユーロ)



■ 売上高の地域別内訳 総額335億4700万ユーロ



2012年度決算要旨

■ 連結貸借対照表 (12月31日現在)

資産の部 (単位100万ユーロ)	2011	2012
• 有形及び無形固定資産	7,751	8,337
• 営業権	5,580	5,648
• 非流動金融資産	5,855	5,913
• その他非流動資産	256	272
非流動資産合計	19,442	20,170
• 各種流動資産	12,042	12,073
• 現金預金等	3,415	4,487
• 金融商品 ^(*)	23	24
流動資産合計	15,480	16,584
資産合計	34,922	36,754

(*) フェアバリュー表示による債券ヘッジ分

純資産及び負債の部 (単位100万ユーロ)	2011	2012
• 連結自己資本	8,361	8,578
• 少数株主持分	1,317	1,500
純資産合計	9,678	10,078
• 長期金融債務	6,807	7,502
• 非流動性引当金	1,865	2,173
• その他非流動負債	203	170
非流動負債合計	8,875	9,845
• 短期金融債務	216	951
• 各種流動負債	15,876	15,650
• 短期銀行借入等	239	189
• 金融商品 ^(*)	38	41
流動負債合計	16,369	16,831
純資産及び負債合計	34,922	36,754
• 正味金融債務	3,862	4,172

■ 連結損益計算書

(単位100万ユーロ)	2011	2012
売上高	32,706	33,547
調整前営業利益	1,819	1,286
• その他営業収支	38	(166)
営業利益	1,857	1,120
• 支払利息	(277)	(290)
• その他金融収支	(13)	11
• 支払税	(528)	(330)
• 関連会社純損益分	198	217
調整前当期利益	1,237	728
• 少数株主利益	(167)	(95)
連結当期純利益	1,070	633

www.bouygues.com
追加情報 ➤

■ 連結キャッシュフロー計算書

(単位100万ユーロ)	2011	2012
営業キャッシュフロー		
• グロスキャッシュフロー (当期純利益+減価償却費等)	3,325	2,777
• 当期支払税額	(399)	(378)
• 運転資金増減等	(56)	42
A - 営業活動によるキャッシュフロー	2,870	2,441
投資キャッシュフロー		
• 正味事業投資	(1,886) ^a	(1,952) ^b
• その他投資関連	9	(201)
B - 投資活動によるキャッシュフロー	(1,877)	(2,153)
財務キャッシュフロー		
• 当期配当金支払	(694)	(608)
• その他財務関連	(2,431) ^c	1,436
C - 財務活動によるキャッシュフロー	(3,125)	828
D - 現金及び現金同等物に係る換算差額	26	6
現金及び現金同等物の増減額 (A + B + C + D)	(2,106)	1,122
• その他非金銭的フロー	-	-
現金及び現金同等物の期首残高	5,282	3,176
現金及び現金同等物の期末残高	3,176	4,298

(a) 4G周波数帯 (2.6GHz) の投資分2億2800万ユーロを含む

(b) 4G周波数帯 (800MHz) の投資分7億2600万ユーロを含む

(c) 12億5000万ユーロ分の自社株買いによる減資を含む

各事業部門の2012年度成績

ブイググループの2012年度売上高は当初予想通りの335億ユーロになりました（前年度比3%増）。営業成績は主としてモバイル通信市場の激変を反映する結果になりました。



ブイグ・コンストラクションの売上高は前年度比9%増の106億4000万ユーロを記録しました（統計範囲と為替の変動がなければ同4%増）。仕掛け契約案件を順調にこなしたおかげで、調整前営業利益率は3.4%と堅調でした。また、当期純利益は同18%アップの2億6700万ユーロを計上しました。



ブイグ・イモビリエの売上高は前年度比3%減の23億9600万ユーロとなりました。フランス国内の住宅市場がかなり冷え込む中で、住宅予約販売の低下に対して調整措置を取ったため、調整前営業利益率は7.5%に終わりました。また、当期純利益も同11%減の1億700万ユーロに留まりました。



コラスの売上高は前年度比5%増の130億3600万ユーロを記録しました（統計範囲と為替の変動がなければ同3%増）。石油精製品販売に伴う赤字と米国における採算性低下が原因となって、調整前営業利益は同6000万ユーロ減の4億600万ユーロを計上しました。反面、中欧ではバランスの取れた営業成績の回復目標が達成されました。また、フランス国内の道路施工が第4四半期に好調だったおかげで、第1四半期に経験した悪天候による工事の遅延を取り戻して、通年ベースで営業利益率を安定させることができました。当期純利益は同10%減の3億200万ユーロに留まりました。



テー・エフ・アンの売上高は前年度比横ばいの26億2100万ユーロを計上しました。TF1グループ全体で同3%ダウンした広告収入の減少分を、同6%アップした他事業の増進が補ったものの、調整前営業利益は同9%減の2億5800万ユーロという結果になりました。

最適化プランphase II（第2段階）に伴う臨時経費4800万ユーロを差し引いた営業利益は2億1000万ユーロになり、最終の当期純利益は同26%減の1億3600万ユーロでした。



ブイグ・テレコムの売上高は前年度比9%減の52億2600万ユーロとなりました。うち回線収入も同9%減の46億3100万ユーロでしたが、固定ブロードバンドの回線収入は同51%増の6億2700万ユーロと急伸びしました。2012年度における国内モバイル市場の激変の影響で財務面は悪化しましたが、それでも想定範囲内に収まりました。EBITDAは9億800万ユーロと当初予想の通りでした。減価償却費と引当金の上積みやEBITDAの低下を反映して、調整前営業利益は1億2200万ユーロに留まりました。1億1800万ユーロの臨時経費を控除した営業利益は400万ユーロになり、最終的には1600ユーロの当期純損失を計上しました。

2012年度にスタートさせた転換プランのための全措置が予定の段取りに従って実施され、1億5100万ユーロの経費節減が2012年度中に既に実行されました。2013年を目処とする3億ユーロの節減計画は間違いなく達成されるでしょう。

社会的責任指標

ブイググループの各事業部門は業務の違いを超えて、企業の社会的責任に関しては共通の要件を分かち合っています。その福利厚生方針と環境保護方針の成果は以下の各データが示す通りです。

www.bouygues.com
追加情報 ➤

■ 保健衛生と安全

職場における安全と衛生の確保は、いかなるビジネス活動においても重要な課題になっています。

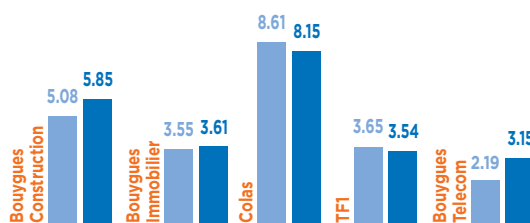
工事現場は危険が伴いやすいことから、建設・不動産・道路部門の各社とも様々な予防措置を集中的に講じ、「事故ゼロ」を目指しながら優れた成果を上げています。

- 特に薬物中毒などの依存症の防止策を含めて、野心的な保健研修プログラムがブイグ・コンストラクションとコラスで実施されています。
- 交通安全や社会心理问题についても全事業部門で取り組んでいます。

労働災害 度数率^(*)

フランス国内外

■ 2011 ■ 2012

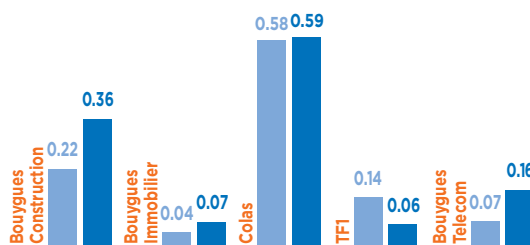


(*) 度数率 = 災害件数 x 1,000,000 ÷ 延労働時間数

強度率^(*)

フランス国内外

■ 2011 ■ 2012

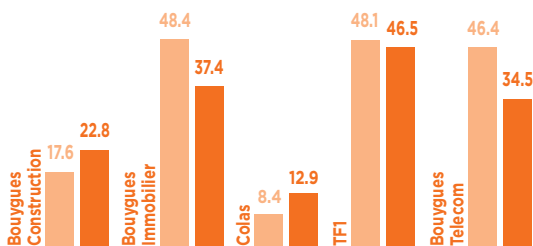


(*) 強度率 = 損失日数 x 1,000 ÷ 延労働時間数

グループにおける女性の活躍

■ 女性従業員
■ 女性管理職^(*)

フランス国内
(単位%)



(*) 対象職位従業員に占める割合

■ 男女共同参画方針

男女共同参画の促進はグループ全社の共通目標です。

工事関係の仕事はどうしても男性中心になりがちですから、ブイグ・コンストラクションとコラスにとっては、女性の新入社員希望者に対していかに職場のイメージアップを図るかが大きな課題になっています。そのために、両社とも中高等学校や大学などの教育現場で広報キャンペーンに努めています。

ブイグではグループ全体を通じて、管理部門における女性の地位向上に向けたアクションを取っています。

建設関連事業に焦点

ブイグ・コンストラクション（建築・土木・エネルギー・サービス）、ブイグ・イモビリエ（不動産開発）、及びコラス（道路など交通インフラ）は、ブイググループが世界的リーダーになっている建設関連部門を担っています。

2012年度における建設関連事業（建設・不動産・道路）の売上合計は前年度比6%増の258億ユーロを計上しました。その活発な営業活動は、同8%増の268億ユーロに上る受注実績に如実に示されています。

国際舞台で活躍するブイグは、これらの業務を通じて「持続可能な建設」のアプローチにコミットしており、高付加価値を持つ斬新なソリューションをお客様に提案する能力によって差別化を図っています。

顧客のニーズに合ったソリューション

ブイグの建設関連事業は、高度なテクノロジーに裏打ちされたノウハウをお客様から高く評価されています。ブイグ・コンストラクションは都市トンネルや橋梁の施工技能を活かして、「港珠澳大橋」の工事のような大型契約を香港で獲得することに成功しました。



カタールの首都ドーハの「カタール石油地区」現場

また、業界動向に対する適応力も強みになっています。ブイグ・イモビリエは中低価格帯の住宅開発を足場にして、2005年以降、フランス国内の住宅販売シェアを着実に伸ばしています。ブイグは高付加価値サービスの開発力の点で持ち味を発揮しています。アルストムと協働するニーム・モンペリエ間バイパスLGV（高速線）、フランス国防省の新庁舎、及びパレ・ド・ジュステイス（パリ裁判所）の諸案件における、設計・保守・金融までを包括したPPP（官民パートナーシップ）がその好例です。

さらに、ブイグは将来の成長性に富んだ分野の開拓にも尽力しています。都市交通に関して自他ともに認めるノウハウを有するコラスは、2012年度、アルジェの地下鉄工事に関する新契約を手に入れました。

「持続可能な建設」のアプローチ

エネルギー面の刷新こそは当該事業の主たる課題です。エネルギー価格の高騰に鑑みて、将来的には古い諸設備の総体を再編成し直す必要があります。象徴的な形で本社Challenger改修を実施するブイグ・コンストラクションや、Rehagreen®アプローチを推進するブイグ・イモビリエは、「持続可能な建設」の領域では押しも押されぬ存在になっています。

新規の建築物については、ブイググループはプラスエネルギーハウスの専門業者でもあります。ブイグ・イモビリエが設計販売しているムードンGreen Office®は、消費する分を上回るエネルギーを自ら生み出しています。

加えて、ブイグ・コンストラクションは明日を見据えて、自治体の供給網に依存しないように設計構築された自立型建物のコンセプト（ABC：Autonomous Building Concept）に取り組んでいます。

他方、新旧の建物に適用するCPE（エネルギーパフォーマンス契約）を策定しました。CPEは建物のエネルギー効率の管理ツールで、場合によってエネルギー効率保証条項を付帯させることもあります。

さらに、「エコタウン」や「インテリジェント送配電網」のコンセプトも展開しています。エコタウンとしては、ブイグ・イモビリエのUrbanEra®アプローチの成果であるリヨンのHikari（ヒカリ）や、ボルドーのGinko（イチヨウ）が代表的です。また、インテリジェント送配電網のほうは、パリ近郊のイシー＝レ＝ムリノーのIssyGrid®が象徴的です。

環境に優しい道路施設のあり方も一つの現実的課題です。コラスは道路資材のリサイクルを効果的な形で進めています。また、

パリ裁判所のプロジェクト
(ブイグ・コンストラクション)



カナダの高速道路化工事
(コラス)



エネルギーをあまり消費せずに生産できる舗装材や、石油成分の代わりに植物性原料を使った製品シリーズを奨励したり、騒音公害を減らせる特殊舗装材も考案したりしています。

強力かつ多様な国際的プレゼンス

ブイグは現在80カ国以上に進出し、何年にもわたって世界中で大型受注を果たしてきました。例えば、ブイグ・コンストラクションとコラスの合計売上上の45%はフランス国外で実現したものです。

■ データ

建設関連事業の フリーキャッシュフロー (単位100万ユーロ)



(*) Axioneの公共サービスのアウトソーシング業務の一部を、ブイグ・コンストラクションが1億6300万ユーロで譲渡した分は除く

フリーキャッシュフローは、当該事業部門が金融費用、税金、及び正味事業投資額を支出した後でも、なお余剰資金を持てる能力を意味しており、運転資金の増減分は含まれない

■ 2012年度の注目ポイント

一味違うサービス

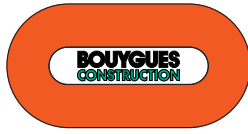
2012年2月、ブイグ・コンストラクションの2つの子会社を含むプロジェクト企業体Areliaが、将来のパレ・ド・ジュスティス（パリ裁判所）の建設等に係わる契約を獲得しました。この子会社の1つであるBouygues Bâtiment Ile-de-Franceが建物の設計と建築を受け持ち、もう1の子会社であるExprimm（直接の親会社はBouygues Energies & Services）が27年間の運営と保守を受け持ちます。工事のスタートは2013年夏になります。

スマートグリッド

2012年4月、ブイグ・イモビリエはパリ近郊のイシー＝レ＝ムリノーにおいて、初のインテリジェント送配電網（スマートグリッド）のIssyGrid®をスタートさせました。家庭のエネルギー消費のフォローと遠隔制御のためには、10戸の試験用マンションの設備を行ったブイグ・テレコムノウハウを使用しました。システム設計については、ブイグとアルストムの共同企業体として情報統合を担当するEmbixが手がけました。

都市交通の挑戦

Colas Rail が率いる企業連合が、アルジェの地下鉄1号線拡張プロジェクトを受注しました。4つの駅を含む4キロメートルが対象になっている当案件は、交通システム全体の構築と駅の整備から成っています。拡張部分の運行開始は2014年11月の予定になっています。



総合 建設業の大手

ブイグ・コンストラクションは建築、土木、エネルギー、サービスの各分野における世界的企業であり、プロジェクトの資金調達、企画、施工、開発、及びメンテナンスまで含めた幅広いノウハウを誇っています。

素晴らしい受注実績

フランス国内外における2012年度の受注処理高は過去最高水準の120億ユーロに達しました。国内では、パレ・ド・ジュスティス（パリ裁判所）とニーム・モンペリエ間のバイパス鉄道という2大受注が奏功して、72億ユーロを記録しました。

フランス国外における48億ユーロの案件の中には、1億ユーロ以上のものが9件含まれています。また、環境認証コミットメント付きの建築物が全体の57%を占めました。

堅固な営業成績

前年度比9%増の売上高の内訳は建築土木が86%、エネルギー＆サービスが14%となりました。売上高の47%を占める国外は前年度比13%増、国内は同5%増と、それぞれビジネスの拡大に寄与しました。調整前営業利益率は3.4%の好水準を維持し、当期純利益は前年度比18%増と大幅にアップしました。

明確な将来見通し

2012年末における受注残高は、前年末比12%増の171億ユーロに達しました（うち45%が国外）。2013年度に施行するために、2012年末時点で確保済みの案件は85億ユーロで、2013年度売上目標の79%に相当します。

2013年度以降の実行案件（前年度比16%増）が全体の51%を占めていることから、将来の見通しが非常に立てやすくなっています。ブイグ・コンストラクションにとっては、中身の濃い受注内容、優れた適応力、及び健全な財務体質の3つが、不安定な経済環境

従業員数

5万5381人

2012年度売上高

106億4000万ユーロ (9%増)

調整前営業利益率

3.4% (0.2ポイント減)

当期純利益

2億6700万ユーロ (18%増)

受注残高

171億ユーロ (12%増)

2013年度目標売上高

107億ユーロ (1%増)

2012年度ハイライト

大型受注案件

- パリ裁判所 (8億2300万ユーロ)
- ニーム・モンペリエ間バイパス鉄道 (7億3300万ユーロ)
- 香港、珠海市、及びマカオを結ぶ橋 (6億700万ユーロ)

進行中工事

- ドーハの「カタール石油地区」
- パリの国防省新庁舎

引渡済み物件

- 南アフリカのハウトレインの鉄道連絡路
- 王立カナダ騎馬警察司令部

持続可能な建設

- 研究開発費の49%をこのために充当 (2011年度は46%)

を切り抜ける確かな拠り所になっているのです。

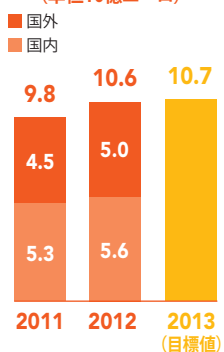
ブイグ・コンストラクションはダイナミックな分野で発展を図りながら、特にエネルギーパフォーマンスや環境パフォーマンスに関して、総合的かつ革新的なソリューションをお客様に提案していきます。



香港、珠海市、及びマカオを
結ぶ橋の予想鳥瞰図

売上高

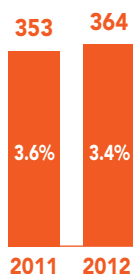
(単位10億ユーロ)



調整前営業利益

(単位100万ユーロ)

調整前営業利益率 (%)



当期純利益

(単位100万ユーロ)



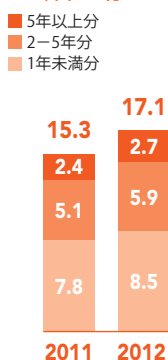
正味現金

(単位10億ユーロ)

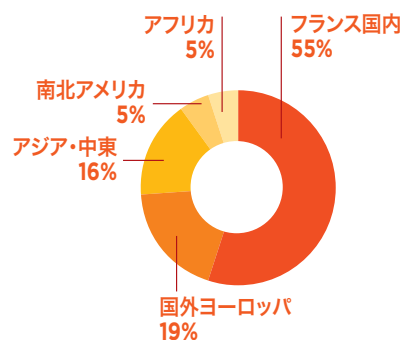


受注残高

(単位10億ユーロ)



受注残高の地域別比率





■ 高付加価値 オペレーション

ニーム・モンペリエ間バイパス鉄道とパリ裁判所の2012年度の受注成功は、設計・建設・運営に係わるPPP契約において、ブイグ・コンストラクションがこれまでに積み上げてきた力量を示しています。コラスとアルストムと共同で獲得した同バイパス鉄道のようなプロジェクトは、今日では事業と環境保護の両面の能力を合体させる必要があります。また、マルセイユ南東の有名なスタジアムStade Vélodromeのリニューアルに伴う10万平方メートルの施設群もまた、不動産開発におけるブイグ・コンストラクションの優れたノウハウを証明しています。

■ 持続可能な建設の ショーウィンドー

工作物のライフサイクル全体を通じて性能コミットメントをお客様に出せるように、ブイグ・コンストラクションはイノベーションに注力しています。そのスタンスの象徴的な例を挙げるなら、エネルギー面の改修を行っている本社Challengerは固有のノウハウの見せ所です。2012年現在、ChallengerはLEED® Platinum、BREEAM®、及びHQE®の3つの認証を全て取得した世界初の建築物になっています。Challengerの改修は世界的な広がりを持つプロジェクトとして注目されています。

ますます活動の幅を広げるブイグ・コンストラクションは、スイスのエコタウンEikenøttのような街作りにも貢献しています。



サン＝カンタン＝アン＝イヴリーヌの
Challenger

カイトッククルーズターミナルの工事



■ 国際的な展開

ブイグ・コンストラクションは世界の5大陸に進出し、非常に有望な市場に経営資源をスピーディーに投入しています。最近、Leadbitter社とThomas Valeを買収して英国でのビジネスを強化しています。ブイグ・コンストラクションは、シンガポールの総合スポーツ娯楽施設 SportsHubや、香港の鉄道トンネル2区間と香港カイトッククルーズターミナルの工事などを進めてきました。長さ800メートル、総面積15万平方メートル、4階建てになるターミナルビルは2013年の完成予定です。こうした大型受注を含めて、アジアにおける事業規模は10億ユーロの大台を突破しました。

■ エネルギー & サービス

ブイグ・コンストラクションの子会社ETDEは2013年2月、Bouygues Energies & Servicesとして生まれ変わりました。これによって、当該分野のグローバル企業としてのポジションを固め、ブイグ・コンストラクションの設計・建設事業との補完性を強めることとなります。エネルギー & サービス事業は一つの新たなサブブランドとなるのです。

Bouygues Energies & Servicesは3つの主要事業を発展させて行きます。第1は、エネルギー輸送などの輸送網インフラの整備です（例えばガボンのエネルギー輸送）。第2は、英国エンフィールドのデータセンターや、アミアン・ピカルディー病院などの複合プロジェクトにおける電子・熱エンジニアリングです。そして第3はファシリティ・マネジメント（施設管理）です。これらによって長期的な経常収入を生み出すことを目指しています。



パリのコンコルド広場

不動産開発の 国内リーダー

ブイグ・イモビリエは、フランス国内35支店と国外ヨーロッパ4拠点のネットワークを活かして、住宅、オフィスビル、及び「持続可能な街」整備のプロジェクトを推進しています。2012年度も「持続可能な都市」にコミットする企業としての立場を強化しました。

ブイグ・イモビリエは近年に受付済みの住宅予約販売のおかげで、2012年度には24億ユーロの売上高を計上しました。しかし、不動産業界の落ち込みへの適応措置の影響が主因になって、調整前営業利益率と当期純利益はふるいませんでした。

住宅関連

2012年の住宅市場がかなり低迷する中で、当年度の住宅予約販売は前年度比29%減の1万516戸（国内は9945戸）に留まりました。ブイグ・イモビリエでは中低位レベルの住宅開発に注力するスタンスに沿って、価格を抑えた適合物件を開発しながら新規の住宅取得者層を取り込む戦略を追求しました。

商業関連

オフィス商業ビル市場も今一つ冴えませんでした。ブイグ・イモビリエは5億8100万ユーロという好水準のオフィスビル予約販売を維持して、受注残を倍増させることができました。これは、次の3つに依拠するグリーンイノベーション戦略の妥当性を裏付けています。

- 高エネルギー効率の実現（国際基準のプラスエネルギービルGreen Office®）。Green Office®計画はムードンの後に、リュエイユ＝マルメゾンとナンテルでもスタート。
- 環境重視のビル再開発（Rehagreen®アプローチ⁽¹⁾）。これについては目下、2つの目玉プロジェクトが進行中。1つはヴァル＝ド＝マルヌ県ジャンティイのCampus Sanofi Val de Bièvreで、もう1つはイシー＝レ＝ムリノーのLa Mondialeプロジェクト。

従業員数
1582人

2012年度売上高
23億9600ユーロ（3%減）

調整前営業利益率
7.5 %（0.7ポイント減）

当期純利益
1億700万ユーロ（11%減）

2013年度目標売上高
25億ユーロ（4%増）

2012年度ハイライト

住宅関連

- ボルドーのエコタウンGinko（イチョウ）の第1区画引渡し
- 公共賃貸住宅の運営機関に3200戸以上の住宅販売

商業関連

- ビル再開発プロジェクトCampus Sanofi Val de Bièvreを開始
- リュエイユ＝マルメゾンでUnilever社の新本社ビル引渡し
- ムードンGreen Office® が当初の期待以上のエネルギー効率を発揮

社会的責任関連

- 女性管理職の割合が前年度比で若干上昇（管理職全体の37.4%）

- ターンキー方式のビル開発。例えばClarins社（パリ）、Schneider Electric社（リュエイユ＝マルメゾン）、Banque Populaire Provençale et Corse社（マルセイユ）の本社ビル計画など。

イノベーション

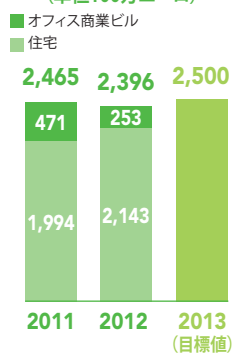
ブイグ・イモビリエは、エネルギーの自給自足ができる「持続可能な街」作りに関して地方自治体を支援しています。具体的には、UrbanEra®の一環として、リヨン市においてプラスエネルギーの複合街区となるHikari（ヒカリ）に初めて取り組みました。また、イシー＝レ＝ムリノーではIssyGrid®プロジェクトに挑戦しました。さらにブイグ・イモビリエは、新設及び既存ビルで高いエネルギー効率を確保できるように、Schneider Electric社とジョイントベンチャーAveltys社を設立しました。

(1) 既存ビルの元の建築特性を尊重しながら再開発を図るために、どんな戦略を採るべきかについて顧客を支援するもの

Rehagreen®アプローチとしての
Campus Sanofi Val de Bièvre
(ヴァル＝ド＝マルヌ県ジャンティイ)

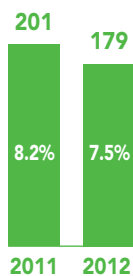


売上高 (単位100万ユーロ)



調整前営業利益

(単位100万ユーロ)
調整前営業利益率(%)



当期純利益

(単位100万ユーロ)

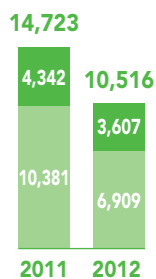


正味現金 (単位100万ユーロ)



住宅予約販売数

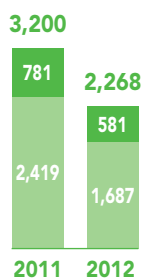
■ 区画数
■ 戸数



予約販売高

(単位100万ユーロ)

■ オフィス商業ビル
■ 住宅





■ 模範的な 不動産再開発

ブイグ・イモビリエは、ヴァル＝ド＝マルヌ県ジャンティイで3万平方メートルの不動産群を所有するMACSFグループから、Rehagreen®アプローチに係わる依頼を受けました。依頼の趣旨としては、2ヘクタールの用地の再有効利用の可能性を探り、パリ地域のBièvre（ビエヴル）サイエンスバレーにSanofiグループが留まれるようにすることでした。

既存の建物を取り壊した更地の上に、建築事務所Valode & Pistreが設計した広さ5万平方メートルの新世代研究キャンパスを作ることになりました。2014年末の完成後には、3000人のSanofi従業員がここに集まることになっています。

■ プラスエネルギー の複合街区

ブイグ・イモビリエはSLC Pitance、日本の隈研吾建築都市設計事務所、及びCRB ArchitectesとタイアップしてHikari（ヒカリ）プロジェクトを実現しました。そこでは、総面積1万3000平方メートルの3つの多目的ビル群が新地区Lyon Confluenceのウォーターフロントに沿って立ち並び、特有の空間編成や多様な施設展開によって様々な機能やサービスが融合できるようになっています。Hikari（ヒカリ）は、環境保全団体WWFから2010年に「持続可能な街」として認定されたLyon Smart Communityのシンボリックな存在です。





■ 期待通りの成果を挙げたGREEN OFFICE®

ムードン市Green Office®はプラスエネルギー型の大規模ビルとしてはフランス初でした。ブイグ・イモビリエが企画設計した本物件は、Scor社がオーナーになって2011年7月からSteria France社に賃貸されています。

ビルの運営保守はCPE（エネルギーパフォーマンス契約）の対象になっており、あらかじめ取り決めたエネルギー使用条件に従って、エネルギーの消費と生産に関するコミットメント条項を付帯しています。

Green Office®を1年間運営して集まったデータによると、エネルギーの生産が消費を予想以上に上回ったことが確認されました。

■ 新規住宅取得者に適合したサービス

中低位レベルの住宅開発に注力するブイグ・イモビリエは、取扱い物件の設計と建設の費用を抑えるために相応の努力を重ねました。

購買力が低下している家計の支払い能力に見合った良質な住宅を提供することが、ブイグ・イモビリエが2011年から設定している目標です。

当年度は、Grand Lyon（リヨン都市共同体）の自治体サン＝フォンで、ファミリーマンションのSymphonyを1平方メートル当り2000ユーロの価格（付加価値税7%）で販売開始しました。





道路施設の ワールドリーダー

コラスは世界50カ国に進出して交通インフラの建設と保守を扱っています。年間10万件の工事を実施しているコラスは、ほとんどの場合に工事と資材生産とを一体化させています。

2012年度は経済不況に加えて天候にも恵まれませんでした。コラスは前年度比5%増の売上高を実現しました。当期純利益は同10%減になったものの、それでも3億200万ユーロという結果を出しました。2012年末現在、25億4400万ユーロの純資産に対して正味負債は1億7000万ユーロに留まり、健全な財務体質を維持しました。さらに、受注残高は同4%増の67億ユーロを記録しました。

コラスは2012年度に1億200万トンの骨材を生産して、25年分の生産量に相当する26億トンの認可備蓄を保持しました。また、160万トンの乳剤と4200万トンの舗装材を生産しました（それぞれ生産量世界1位）。

道路施工

売上高はフランス本国ではほぼ横ばいで、北欧では上伸びしましたが中欧では低下しました。北米では主としてカナダの子会社の健闘のおかげで増加しました。海外県、アフリカ、及びインド洋地域ではいずれも堅調でした。アジアとオーストラリアでは大幅に増進しました。

専門業務

専門業務には様々な動きが見られました。かなりの受注残のおかげで鉄道関係が増進し、原油相場の上昇で石油精製品販売額が増加し、道路安全標識関連が横ばいになり（統計範囲と為替相場を一定とする）、防水膜事業が底力を発揮し、パイプライン事業が低下しました。

従業員数

6万2806人

2012年度売上高

130億3600万ユーロ (5%増)

調整前営業利益率

3.1 % (0.7%減)

当期純利益

3億200万ユーロ (10%減)

受注残高

67億ユーロ (4%増)

2013年度目標売上高

132億ユーロ (1%増)

2012年度ハイライト

事業再編

2013年1月より、フランス本国で道路事業の新体制をスタート（7つの子会社を単一ブランド「コラス」に統一）

M&A

次の各社を買収

- 英国のPullman Rail社（鉄道機材の保守・修理）
- 地理のAguilar社（防水膜等）
- 南アフリカのDust-A-Side社（鉱山工事）
- フランス本国のRambaud社（採石場）
- ニューカレドニアの建設資材会社

大型契約

- ニーム・モンペリエ間特急路線
- アルジェリア地下鉄1号線路拡張
- ロンドンの都心道路保守

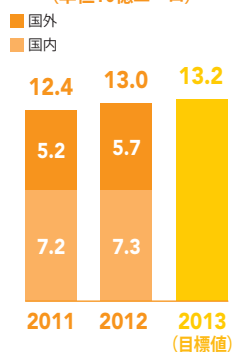
責任ある発展

コラスは資源とエネルギーの節約、CO2排出削減（中温の舗装材による）、職場の安全、及び人材多様性に係わる「責任ある発展」の目標を追求しました。

ランド県の高速道路A63号線
(国内で進行中の高速道路工事
としては最大規模)

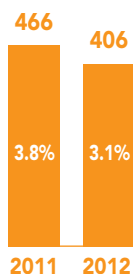


売上高
(単位10億ユーロ)



調整前営業利益

(単位100万ユーロ)
調整前営業利益率(%)

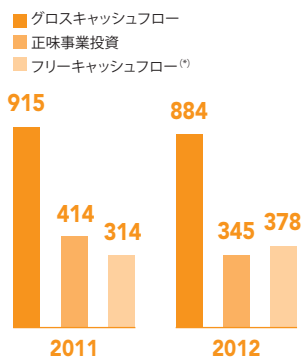


当期純利益

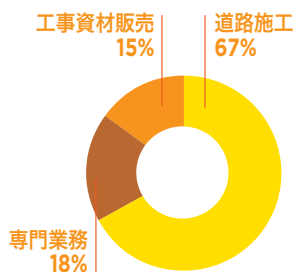
(単位100万ユーロ)



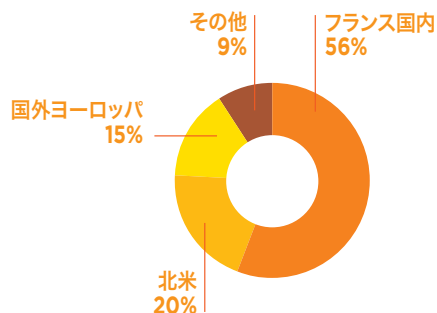
キャッシュフロー
(単位100万ユーロ)



分野別売上比率



地域別売上比率



(*) 運転資金増減分は含まれない



■ 高速道路A63 工事の成功

コラスが先導する共同企業体 Atlandesが2011年秋、国内で最大規模の高速道路工事を開始しました。これは営業権契約の枠組みで受注した、高速道路A63号線の105キロメートル区間の整備・拡張工事です。

この大規模工事は予定よりも迅速に進行し、2012年末時点において、早くも2013年春に第1回目の引渡しが見込まれることとなりました。この進捗ぶりからも、複雑な大型工事実施に関するコラスの能力とノウハウが証明されました。

■ 強力な武器になる 各種資材

コラスは道路の施設や保守のために使う各種の資材も自前で生産しています。2012年現在、コラスは683カ所の採石場を結びきめ細かいネットワーク、138カ所の乳剤工場、567カ所の舗装センター、212カ所の生コンクリート工場、及び2カ所のアスファルト生産工場をフランス内外に持っています。そして、乳剤と舗装材の生産では世界第1を誇っています。施工と資材生産との垂直統合は、コラスにとっては競争上の強力な武器になっています。コラスはこれによって、必要資材の確保、使用資材の品質管理、競争力の向上、及び付加価値の増進を図ることができています。



米国ジョージア州の
乳剤工場



カサブランカの
路面電車路線

■ 将来性のある 鉄道関係

コラスは鉄道インフラの建設・保守への完全対応体制を活かして、地下鉄、路面電車、LGV新路線の長期保守契約など、多岐にわたるプロジェクトを引き受けることが可能です。

2012年度は、ニーム・モンペリエ間LGVやアルジェの地下鉄1号線路拡張などの受注を獲得しました。

鉄道事業の将来は、モビリティ（交通移動）へのニーズ、世界的な交流増大、都市化、一部の国における慢性的投資不足、及び厳しくなる環境要件などの持続的なファクターが支援材料になっています。コラスにとって、鉄道関連は特に国際舞台で成長するチャンスだと言えます。

■ 職場の安全が第一

6万2800人の従業員を擁し、6万5000台の車両や機械を備えるコラスにとっては、工事現場や移動中の事故を防ぐことが一番大きな課題になっています。コラスは、2012年度も安全研修や事故防止に積極的に取り組む方針を堅持して、交通安全憲章の4回目の更新を行い、現場サイドでも多数のアクションを続行しました。長年に渡る努力が奏功して、コラスが国内で保有する車両に係わる交通事故の頻度は、過去15年間に65%低下しています。

また、フランス国内外で働く従業員の31%が救急救助研修を受けています。





仏民放テレビ界の トップグループ

テレビ業界をリードするテー・エフ・アンは、世の中に情報を提供し人々を楽しませることを使命と考えています。近年は有料テレビに進出するとともに、インターネット、映像等コンテンツ権、プロダクション、及びランセンス事業への多角化を図っています。

テー・エフ・アンの2012年度の売上高は前年度比横ばいの26億2100万ユーロでした。経済環境が悪化する中で広告の依頼が減り、TF1グループの広告収入は落ち込みましたが、事業の多角化の伸長がこれを補いました。調整前営業利益は2億5800万ユーロを計上し、最適化プランの経費4800万ユーロを控除した営業利益は2億1000万ユーロでした。最終的な当期純利益は1億3600万ユーロになりました。

卓越したテレビ放送

国内テレビ界の雄であるTF1局は4歳以上の視聴者シェア22.7%、50歳未満の女性（購買決定者）の視聴者シェア25.5%を記録しました⁽¹⁾。

一方、TMCは全国第5位局としての地位を保持し⁽¹⁾、NT1は引き続き視聴者数を躍進させています。新しくスタートしたHD1は、地上デジタルテレビ放送（仏略称TNT）におけるテー・エフ・アンのサービスを補強しています。

さらに、TF1グループはテレビ、インターネット、スマートフォン、タブレットなどを通じたデジタル戦略の成果を上げています。

新たな成長の牽引力

Eurosport、TF1 Entreprises、及びTéléshoppingなどの好成績のおかげで、事業者と消費者向けの各種サービス業務が採算性を改善しながら2012年度も発展を続けました。これらの多角化ビジネスは、TF1グループ内で新たな成長の牽引力になっています。

従業員数
3990人

2012年度売上高
26億2100万ユーロ（横ばい）

調整前営業利益率
9.8%（1.0ポイント減）

当期純利益
1億3600万ユーロ（26%減）

2013年度目標売上高
25億4000万ユーロ（3%減）

2012年度ハイライト

視聴率

- 4歳以上の視聴者シェアはTF1グループ全体で28.4%⁽¹⁾
- フランス全放送局の中で2012年度最高視聴率を記録。3月16日放送のチャリティーコンサートEnfoirés（アンフォワレ）を1330万人が視聴⁽¹⁾

ビジネス戦略

Discovery Communicationsとパートナーシップ契約

サービス充実

無料地上デジタルテレビ放送の第4チャンネルとしてHD1をスタート

公平の尊重

AFNORのLabel Diversité（人材多様性認証）に沿ったアクションを続行

前進し続けるグループ

テー・エフ・アンは2012年度、事業体質の改善を一層推進する最適化プランのphase II（第2段階）を開始しました。これは、2008年から2011年にかけて実施した1億5500万ユーロの経常費の削減に続いて、2014年末までにさらに8500万ユーロを削減することを目指すものです。一方、アメリカのメディア企業Discovery Communications（ディスカバリー・コミュニケーションズ）と将来有望な戦略的パートナーシップ契約を結びました。これによって、TF1グループの有料コンテンツ制作の基盤強化が可能になるでしょう。

テー・エフ・アンでは、絶えず自らのビジネスモデルを状況に適合させながら前進を続けているのです。

⁽¹⁾ データはMédiamétrieのMédiamat 2012年度調査による

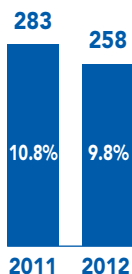
平日夜8時の
ニュース番組司会者
Gilles Bouleau



売上高
(単位100万ユーロ)



調整前営業利益
(単位100万ユーロ)
調整前営業利益率 (%)



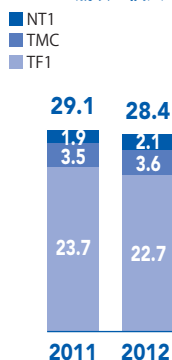
当期純利益
(単位100万ユーロ)



放送番組関連費
(単位100万ユーロ)



視聴者シェア^(*)
4歳以上個人



(*) Médiamétrieによる

**見逃し番組の
無料ビデオ月間視聴数**
(単位100万回)





『レボリューションナリー・ロード/燃え尽きるまで』の
レオナルド・ディカプリオとケイト・ウィンスレット

■ 一頭地を抜く存在

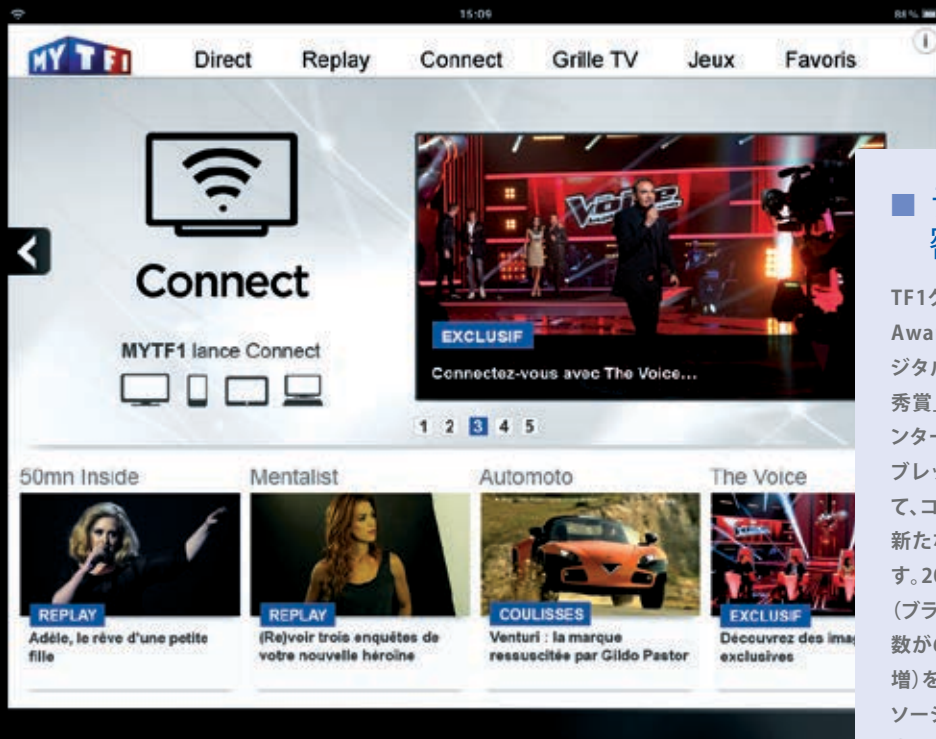
TF1グループは自他共に認めるトップのTF1、急成長のTMCとNT1、それに2012年12月にスタートしたテーマ局HD1を活用して、フランス国内で抜群に魅力的な無料テレビ番組を提供しています。今後のビジネス戦略としては、CSAなどに対するコミットメントを遵守しながら、TF1の力量維持と他の3局の個性的発展を図り、激しい競争が繰り広げられる業界でポジションを固めることを志向しています。また、無料のニュース配信や視聴覚制作にも力を入れて行きます。

■ 上伸する 有料サービス

テー・エフ・アンは、専門有料テレビやEurosport(ヨーロッパ発のスポーツ専門チャンネル)の番組の制作拡大に努めています。2012年12月に発表したDiscovery Communicationsとの戦略的提携は、この方面の発展をスピードアップするだけでなく、コンテンツ制作における立場を強化することを狙っています。また、一般消費者向けにDVD、VOD(ビデオ・オン・デマンド)、ボードゲーム(チェスなど)、音楽作品などの通信販売、制作、流通なども手掛けています。



EurosportとEurosport 2で放送された
ローラン・ギャロスの試合



■ デジタルによる密接な関係

TF1グループは、Social Media Awards2012の「チャンネル・デジタル・フィンガープリント最優秀賞」を受賞しました。テレビ、インターネット、スマートフォン、タブレットなど複数の手段を通じて、コンテンツ配信をユーザーの新たな利用形態に合わせています。2012年は、見逃し番組ビデオ（ブランド名「MYTF1」）の視聴回数が6億5700万（前年度比21%増）を数えました。TF1グループはソーシャルネットワークを含めた全ルートを活用して、視聴者との交流を密にしています。

■ 社会的責任の重視

ティー・エフ・アンはフランスの先導的メディアグループとしての責任を自覚して、CSR（企業の社会的責任）を十分に踏まえたうえでビジネス戦略の方向性を決定しています。とりわけ、関係するステークホルダーとの連携を図りながら、一方に偏らない多様な番組作りと表現描写、差別を排したオープンな姿勢、連帯の促進、社会的な絆の尊重、及び持続可能な発展の課題達成を心掛けています。また、ティー・エフ・アンは、機会均等、平等待遇、及び差別防止の点で模範企業であることを証するLabel Diversité（人材多様性認証）を独立機関のAfnor Certificationから授与されています。

機会均等を奨励する
TF1企業財団



トータル通信 サービス企業

ブイグ・テレコムはフランスにおける第3の通信事業者として、2012年末現在1310万人を数えるユーザーのデジタルライフを支援するために、今後もイノベーションを追求し続けていきます。

激変の年となったモバイル分野

「期間非拘束、端末無し、オンライン販売、及び低価格」を特色とする第4の通信事業者がフランスの携帯電話市場に参入したことにより、2012年度は激変の年となりました。

旧来とは異なるこの種のサービス方式が次第に浸透するにつれて、モバイル市場は大きく様変わりするようになりました。ブイグ・テレコムは厳しい競争にさらされながらも、イノベーションを続けて新たに躍進する能力を示すことができました。

2012年度第1四半期にはモバイルユーザー数を大幅に減らしたものの、とりわけ独自のB&YOUを武器にして回復に努めました（100%オンライン販売に特化したB&YOUは期間非拘束型であり、販売奨励価格の端末機器をセットにしない）。この努力が実り、2012年度はモバイル定額料金ユーザーの数を31万8000人新たに増やすことができました。

急伸を続ける固定分野

2012年度、ブイグ・テレコムは60万5000人の顧客を新たに獲得して、累計184万6000人の固定ブロードバンドユーザーを誇るに至っています。当年度は家庭向けの革新技術を搭載したBbox Sensationを投入しました。一方、Numericable社のネットワークを含めた超高速ブロードバンドのユーザー数は28万9000人に増加しました。

経済モデルの進展

固定ブロードバンドの収入は前年度比51%アップしたものの、業界における低価格サービスの浸透や、コールターミネーション料金の新たな低下の影響により、ブイグ・テレコムの売上高は同9

従業員
9659人

2012年度売上高
52億2600万ユーロ (9%減)

調整前営業利益率
2.3 % (7.5ポイント減)

当期純利益
(-) 1600万ユーロ

2013年度目標売上高
48億5000万ユーロ (7%減)

2012年度ハイライト

1月

B&YOU（通話、SMS/MMS無制限、及び3ギガバイトのデータ通信）を月額19.99ユーロで新たに提供

3月

- Edenシリーズを簡素化
- 4Gネットワークの展開開始

6月

業界最新鋭の技術を搭載したBbox Sensationをスタート

8月

- 電子情報機器専門のDarty226店舗でブイグ・テレコムの製品サービスを販売
- Darty Telecomを買収

11月

B&YOU（通話、SMS/MMS無制限）を月額9.99ユーロで新たに提供

%減となり、EBITDA⁽¹⁾も3億6400万ユーロ減りました。1億1800万ユーロの臨時経費を控除した営業利益は400万ユーロで、当期純利益はマイナス1600万ユーロを計上しました。

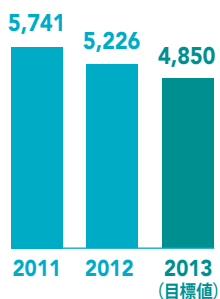
厳しい状況を踏まえて、ブイグ・テレコムはモバイル事業の転換プランを実施しました。当該プランの中には提供サービスの再配置付けと簡素化、資産譲渡、及び2013年末を目処とする3億ユーロの経費削減計画も含まれています。

(1) 減価償却費と引当金を調整前営業利益に加え、非使用引当金の繰戻し分を差し引いた金額

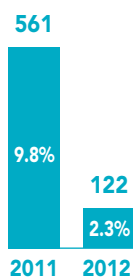


2012年末時点で
1310万人のユーザーを数える
ブイグ・テレコム

売上高 (単位100万ユーロ)



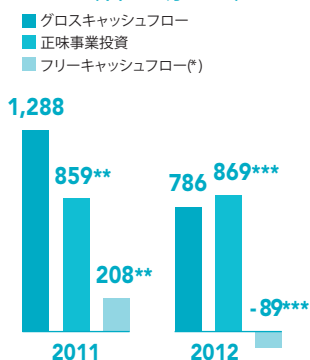
調整前営業利益 (単位100万ユーロ) 調整前営業利益率 (%)



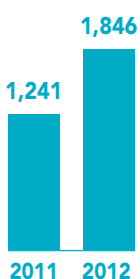
当期純利益 (単位100万ユーロ)



キャッシュフロー (単位100万ユーロ)



固定ブロードバンドユーザー (単位千人)



モバイルユーザー (単位千人)



(*) 運転資金増減分は含まれない

(**) 2.6 GHz周波数帯投資分(2億2800万ユーロ)を除く

(***) 800 MHz周波数帯投資分(6億9600万ユーロ)、及び一時的な資産譲渡分(2億700万ユーロ)を除く



■ 4G でさらに速く

データ通信、スマートフォン、及びタブレットの利用増大に対応するため、ブイグ・テレコムは2012年3月、4Gネットワークの展開をスタートさせ、リヨンに住む400人のユーザーを対象に試験的サービスを始めました。その最大の利点はスピードにあります。超高速ブロードバンドに匹敵するスピード(毎秒最大115メガビット)のおかげで、インターネットのデータをほぼ瞬時に入手できます。4Gネットワークを本格的に商業ベースに載せるまでは、ブイグ・テレコムは現在のネットワークを進化させて、3.5G (HSPA) (*) より6倍近く速いサービスをユーザー(カバー地域人口の58%に相当)に既に提供し始めています。

(*) UMTS規格第二世代

■ 100%オンラインのB&YOU

ブイグ・テレコムの新アイデアとして2011年7月にスタートしたB&YOUは、期間非拘束型で100%オンラインの提供になっています。

第4の通信事業者の参入によってモバイル市場の棲み分けが進む中で、B&YOUは販売奨励を廃止した低価格サービス分野で存在感を発揮しました。そのユーザー数は2012年末時点で107万8000に達しています。

定額料金プランとプリペイドカードの両方で価格競争力を持つB&YOUは、ユーザーのニーズに応じて提供サービスを常に進化させています。なお、B&YOUのユーザーはブイグ・テレコムの高性能ネットワークを楽しむこともできます。

追加情報 www.b-and-you.fr



Exclusivement sur
b-and-you.fr

B&YOU

■ 魅力あふれる BBOX SENSATION

ブイグ・テレコムが最新世代ボックスとして2012年6月に打ち出したBbox SensationはADSL、ケーブル、光ファイバーのいずれの技術にも対応しています。当社はこれによって、完璧かつスムーズで簡単なデジタル体験をユーザーにお届けしています。Bbox Sensationはユーザーインターフェースのクオリティーの高さを評価されて、2012年10月17日付けで、Best Broadband Experience賞を受賞しました^(*)。他方、ブイグ・テレコムは、電子情報機器専門のDarty226店舗で自社の製品やサービスを販売する協定を締結しました。以来、「Bouygues Telecom Edition Darty」と命名した経路を通じて、完全なソリューションをユーザーに提供しています。

(*) Broadband Infovision Awardsは世界における固定インターネットのベストサービスとイノベーションを表彰するもの



■ 新エコシステムとして の中古モバイル

ユーザーは2012年7月から、B&YOUのショップ (www.revente-telephones.b-and-you.fr) で自分の携帯電話を売却できるようになりました。この売却ショップはRecommerce Solutions社とタイアップして立ち上げたもので、クラブ店やホームページ (bouygues-telecom.fr) で2010年以来実施してきたシステムを補完しています。スタートしてから現在までに、1000万ユーロ以上の売却代金がユーザーに支払われました。

ブイグ・テレコムは2011年、自前のリサイクルルートを通じて回収した中古携帯電話のショップを業界で初めてオープンしました。現在、製品保証の付いた中古携帯電話(使用制限解除済み)がオンライン (bouyguetelecom.fr) とB&YOU.fr) で安価に入手できるようになっています。



各事業部門の社会的責任指標



Bouygues
Immobilier



www.bouygues.com
追加情報 ➡

■ ブイグ・コンストラクション

達成目標	関連指標	単位	2011年	2012年	解説
「持続可能な生活環境」に役立つ優れたプロジェクトをエコデザインする。	環境認証のコミットメント付き建築物の受注率 • データは国内外全体（建築業務）	%	55	57	ブイグ・コンストラクションは顧客に対して環境認証を奨励し、内部査定を拡大した（92人のスタッフが査定人等として活動）。
環境に優しい工事現場を実現する。	Iso 14001認証による環境管理システムの対象になった事業のウェイト • データは国内外全体（営業権関連は除く）	%	88	89	ますます広い範囲で環境認証を展開することにより、ブイグ・コンストラクションのビジネス活動による環境への影響を制御しやすくなった。
近隣住民との協議や意見交換の機会を増やしていく。	近隣住民の満足度評価、広報、及び協議などの諸活動の対象になった工事現場のウェイト • データは国内外全体（Bouygues Energies & Services、及び VSLを除く）	%	65	68	地域主体との対話を優先課題の一つとし、現場の近隣住民の迷惑を最大限減らすように努めた。

■ ブイグ・イモビリエ

成長牽引力としてグリーンビルを促進する。	事業化したBBC ^(*) -effinergie [®] の住宅のウェイト	%	78	97	2010年7月におけるBBC-effinergie [®] 認証普及の決定以降急伸した。 今後の目当て⇒ HPE及びBeposの住宅数を増やす（初のBepos住宅が2012年にエクサンプロヴァンスで引き渡された）。
	Rehagreen [®] アプローチの対象になった、工事進行中又は引き渡し済みの商業物件の面積（2011年のRehagreen [®] 開始以降の累計）	延べm ²	23,614	75,821	面積50,000 m ² のRehagreen [®] 計画として、Campus Sanofi Val de Bièvreを着工した。 今後の目当て⇒ オフィス商業ビルの持続可能な再開発を目指すRehagreen [®] アプローチをさらに展開する。
	年度中に建築許可申請した国内オフィスビルの最終エネルギー消費量	kWh/m ²	31	30	ムードンにおける初のGreenOffice [®] を1年間機能させ、当該モデルの有効性が確認された。 今後の目当て⇒ GreenOffice [®] の開発を継続して、オフィスビルのエネルギー収支の最適化を図っていく。

(*) RT2005 / RT2012の規制範囲によるBBC（仏略語）＝低エネルギーハウス
Bepos（仏略語）＝プラスエネルギーハウス
HPE（仏略語）＝高効率エネルギー

■ コラス

達成目標	関連指標	単位	2011年	2012年	解説
地域住民との対話をを行い、生産現場に対する理解を得る。	地域住民との対話の場を設けている生産現場のウェート • データは国内外全体 • 売上高100%対象	%	44	45	砂利・採石場を含めて全ての現場で住民対話を取り入れた。 今後の目当て⇒ このウェートを2年以内に50%まで持つて行く。
資材の節約と温室効果ガスの抑制のために、道路舗装材のリサイクル利用を促進する。	アスファルトを有効活用するための舗装材凝塊リサイクル率 • データは国内外全体 • 売上高100%対象	%	12	13	リサイクルされた舗装材が2012年に40万トン増え、かなりの進展があった。 今後の目当て⇒ 2015年までに舗装材のリサイクル率を平均15%まで持つていく。
スタッフに対して救急救助研修を行う。	救急救助研修を受けたスタッフの割合(年度末時点) • データは国内外全体	%	32	31	救急救助研修を受けたスタッフの2012年度累計は1万8740人になった。 今後の目当て⇒ 2015年までにこの割合を35%まで持つていく。

■ テー・エフ・アン

倫理原則をきんと適用し、規則上の枠組み作りに参加する。	番組の制作・放送の対するCSAの注意、催告、及び制裁件数	件	5	未発表 ^(*)	番組作りに関して一層の注意を払い、CSAと定期的に意見交換し、「ネット上のゲーム・くじ憲章」の調印を済ませ、多様な表現描写についてのコミットメントを行い、字幕クオリティー憲章に調印した。
視聴者その他のステークホルダーとの対話を一層進める。	ソーシャルネットワークでのファンの数	100万	-	15	意見交換や双方向交流のためのユニークな場である、ソーシャルネットワークでTF1のプレゼンスを高めた。また、多くの番組司会者がツイッター(http://www.tf1.fr/tf1-et-vous/)の登録者と対話を始めた。
TF1 グループの各局において、社会的連帯・紐帯を奨励する。	連帯アクションによる寄付(金額換算) ^(**)	100万ユーロ	21.3	28.9	6回目の「雇用週間」キャンペーンを実行。また、全チャンネルを総動員して、プライムタイムに特別番組を放送した。そこではRestos du coeur (心のレストラン)、Pièces jaunes (入院児童への支援)、Sidaction (エイズ撲滅運動) などを取り上げた。

(*) CSA (視聴覚高等評議会) の2012年評価報告書が公表される2013年9月に確定データが得られる。CSAによる公表後はTF1のウェブサイトでも閲覧が可能(<http://www.groupe-tf1.fr/rse/>)。

(**) NPO等に対する現金寄付や、TF1や専門チャンネルを通じて提供された現物寄付の合計(企業財団分は除く)。現物寄付の内容としては、テレビの番組スペース提供、無償広告スペース提供、スポット広告作成、及び技術サービスなどが含まれる。

■ ブイグ・テレコム

できるだけ多くの人にブイグ・テレコムのサービスを利用してもらえようにする。	体の不自由な人も利用できるブイグ・テレコム・クラブ店の数 (*) 認可店と支店を含む	店	366 (421中 ^(*))	380 (429中 ^(*))	障害を持った人も利用できる「エコデザイン店」という新コンセプトを展開した。
自社のビジネス活動による環境フットプリントを減らすとともに、顧客の環境フットプリントの削減に貢献する	オフィス、通信施設、「データセンター」におけるエネルギー消費の対前年比率	%	(+)4	(-)3	Iso 50001 タイプの管理システムを全施設に設置した(2012年12月31日現在、施設床面積の10%相当が認証済み)。
	一般ユーザーとビジネスユーザーから回収した使用済み携帯端末の数	ユニット	94,600	142,800	ブイグ・テレコム・クラブ店での下取りサービスを一層促進させた。 ウェブサイト(bouyguestelecom.fr)上でリサイクルの最適化を図り、B&Youの専用サイトでもキャンペーンを打った。 中古モバイル機器の販売を拡大した。



より持続可能な 世界の構築

9万2800人に上るアルストムのスタッフたちは約100カ国において、THERMAL POWER(熱エネルギー)、RENEWABLE POWER(再生可能エネルギー)、GRID(送電)、及びTRANSPORT(輸送)という4つのセクターで、持続可能な発展の問題を中心に据えながら力量を発揮しています。

プロフィール

アルストムは発電、電力網管理、及び鉄道輸送のインフラで世界をリードする企業です。

発電

あらゆる発電技術を備えるアルストムは2つのセクターを通じて、業界随一の充実した製品とサービスを提供しています。まず、Thermal Powerセクターはガス、水蒸気、及び原子力による発電に加えて自動化・制御と各種サービスをカバーしています。次に、Renewable Powerセクターでは、水力、風力、ソーラーその他の再生可能エネルギーを集約的に扱っています。

アルストムはタービン方式の発電所、水力発電、空気質制御システム、及び発電関連サービスで世界ナンバーワンに位置しています。また、既存の発電所の再開発、改良、改修、及び近代化に関して豊富な経験を持っています。世界中で稼働している発電所の25%の主要設備の少なくとも1つはアルストムが設置したものです。

「クリーン電力」の面で第1線に立つアルストムは、次の3点に依拠した現実的なアプローチを、お客様と連携しながら提案・推進しています。

- CO₂排出を抑える発電技術の開発
- 発電所のエネルギー効率と環境効率の改善
- 発電所から排出されたCO₂の回収・貯蔵(アルストムはこの分野でパイオニア)

データは2012年度上半期
(2012年4月1日～9月30日)

従業員数

9万2800人 (*)

売上高

97億4800万ユーロ (4%増)

営業利益率

7.2% (0.5ポイント増)

純利益

4億300万ユーロ (11%増)

受注高

121億2900万ユーロ (19%増)

(*) 2012年12月31日現在

ハイライト

2012年4月

フランスの沖合風力タービン(20億ユーロ)

2012年8月

インドの超高電圧連結(4億ユーロ)

2012年9月

ブラジルの陸上風力タービン(2億7000万ユーロ)

2012年10月

英国のガス発電所(4億1000万ユーロ)

2012年12月

- ドイツの複合サイクル発電所(3億5000万ユーロ)
- イタリアの地方列車(4億4000万ユーロ)

2013年1月

エチオピアの水力発電設備(2億5000万ユーロ)

電力網管理

Alstom Gridは電力網用技術の世界的なリーダーとして、各用途に合わせた統合的なソリューションを電力網関連業者に提供しています(例えば交流と直流、中電圧から超高電圧までの各種の変電所など)。Alstom Gridはスマートグリッド(インテリジェント送配電網)やスーパーグリッドの開発にも貢献しています。スマートグリッドは、電力網の安定性と効率性の点で格段に優れています。また、スーパーグリッドは、再利用可能なエネルギー源から作られた電力を活用して遠い国や地域を結ぶことができます。



世界最大の沖合風力タービンHaliade



強力なArabelle蒸気タービン



カサブランカの路面電
(2012年12月開通)

鉄道輸送

Alstom Transportは、超高速交通から軽快な都市交通に至るまで全タイプの鉄道に対応しており、鉄道車両だけでなく各種のインフラ、信号設備、保守サービス、及びターンキー方式鉄道システムなども扱っています。Alstom Transport は新幹線、特急列車、及び都市鉄道で世界第1位を誇っており、現在運行中の新幹線や特急列車の1000車両以上、世界の地下鉄の4分の1、路面電車の3分の1を提供しています。

営業成績

手堅い受注水準

アルストムは2012年度上半期(2012年4月ー同9月)に、前年同期比19%増の121億ユーロという手堅い受注水準を実現しました。特に輸送セクターでは46億ユーロの注文を得て2008年度上半期の記録を更新しました。アルストムの上半期売上高は同4%増の97億ユーロ、営業利益は同12%増の7億300万ユーロ、営業利益率は前年同期の6.7%を上回る7.2%になりました。

好調な第3四半期

第3四半期(10月ー12月)は、依然として困難なビジネス環境の中で堅調な業績を示し、51億ユーロの受注を獲得しました。2012年度第3四半期までの9カ月間(2012年4月ー同12月)の受注高は、新興国の旺盛な需要に支えられて、前年同期間比14%

セクター別に見た受注処理高

(単位10億ユーロ)

	2011年度	増減	2012年度
Grid	10.2	19%増	12.1
Thermal Power	1.9	18%増	2.2
Renewable Power	4.6	2%増	4.7
Transport	1.0	41%減	0.6
	2.7	72%増	4.6

(上半期)

2011年度

2012年度

増の172億ユーロを計上しました。とりわけ輸送セクターでは同50%も上伸しました。

新技術の強化

アルストムは急成長を遂げる国々への進出・展開に注力しつつ、新技術の強化を図っています。そのために、太陽熱発電の米国BrightSource Energy社への出資比率を20%以上に増やしました。また、潮流発電の英国Tidal Generation Ltd社の取得を発表しました。

BOUYGUES

GROUPE BOUYGUES

グループ本社

32 avenue Hoche
75378 Paris cedex 08
France

Tel.: +33 1 44 20 10 00
www.bouygues.com

BOUYGUES CONSTRUCTION

本社

Challenger

1 avenue Eugène Freyssinet - Guyancourt
78061 Saint-Quentin-en-Yvelines cedex
France

Tel.: +33 1 30 60 33 00
www.bouygues-construction.com

BOUYGUES IMMOBILIER

本社

3 boulevard Gallieni
92445 Issy-les-Moulineaux cedex
France

Tel.: +33 1 55 38 25 25
www.bouygues-immobilier.com

COLAS

本社

7 place René Clair
92653 Boulogne-Billancourt cedex
France

Tel.: +33 1 47 61 75 00
www.colas.com

TF1

本社

1 quai du Point du Jour
92656 Boulogne-Billancourt cedex
France

Tel.: +33 1 41 41 12 34
www.tf1.fr

BOUYGUES TELECOM

本社

32 avenue Hoche
75008 Paris
France

Tel.: +33 1 44 20 10 00
www.bouyguestelecom.fr



コーディネーション:ブイグループ広報部

発行日:2013年2月

デザイン&制作: AC² Communication

翻訳:小川隆久

印刷:エソンヌ県所在Typoform (当印刷所は
PEFC森林認証を受けてImprim'vert[®]マーク
を取得)。

印刷部数は必要分のみに完全限定していますの
でこの冊子はなくさないようにしてください。ブ
イグはEcoFolioにエコ協力を拠出しています。



ブイグループのインターネットサイ
トとイントラネットサイト上で、「2012
年度事業概要」のオンライン増補版
がスライドショー、ビデオ、文書などの
形で閲覧できます(タブレット端末の
場合はブイグのアプリ)。オンライン版
の制作はPrestimedia。

表紙:ブイ・コンストラクション、ブイ・イモビリエ、コラス、デー・エフ・アンの各本社ビル、
及びブイグ・テレコム Sequanaビル(営業・マーケティング・管理部門が入居)。

クレジット:S. Arbour (p. 17), D. Azoulay (p. 3), Balloide-Photo 64 (p. 27 - 28), F. Berthet (表紙), L. Benevello
(p. 21), Bouygues Telecom (p. 8, 36 - 37), Y. Chanoit (p. 9), C. Chevalin (p. 31), W. Choroszewski (p. 28), R. Cosstick
(p. 9), A. Da Silva/Graphix-Images (表紙, p. 5, 36), DR (p. 19), 2009 Dreamworks LLC (p. 32), H. Fabre (p. 7, 29),
A. Février (表紙, p. 7), Getty Images (p. 32), O. Guerrin (p. 5), P. Guignard/Air-Images (p. 6, 20), E. Lamperti
(見返し), E. Matheron Balay (p. 35), D. Mattioli (p. 21), V. Paul (p. 16), P.-E. Rastoin (p. 1), © Sony Pictures Television
Inc. (p. 9), P. Thébaud (p. 29, 見返し), C. Thomas (p. 24), L. Zylberman/Graphix-Images (p. 20, 25)。アーキテクト:
Arquitectonica (表紙), Agence Renzo Piano Building Workshop (p. 17), Kengo Kuma and associates (p. 24), Léger
Denys - Archigroup (p. 25), R. Lopez & Associés (表紙), OMA (p. 9), C. de Portzamparc (表紙), P. Riboulet (表紙),
K. Roche (Challenger), K. Roche J. Dinkeloo & Associates/SRA Architectes (32 Hoche), Saubot & Julien (表紙), Valode
& Pistre (p. 23 - 24), J.-M. Wilmotte (p. 9)。